機関リポジトリアウトプット評価の標準化と高度化 （ROAT）

代表機関：千葉大学，　連携機関：東北大学，筑波大学

オープンアクセス・サミット2013
2013.6.6　セッション2：CSIの現状の到達点

千葉大学附属図書館利用支援企画課　　武内 八重子

機関リポジトリアウトプット評価の標準化と高度化（ROAT）

- 2010-2012年度の活動
- 今後？

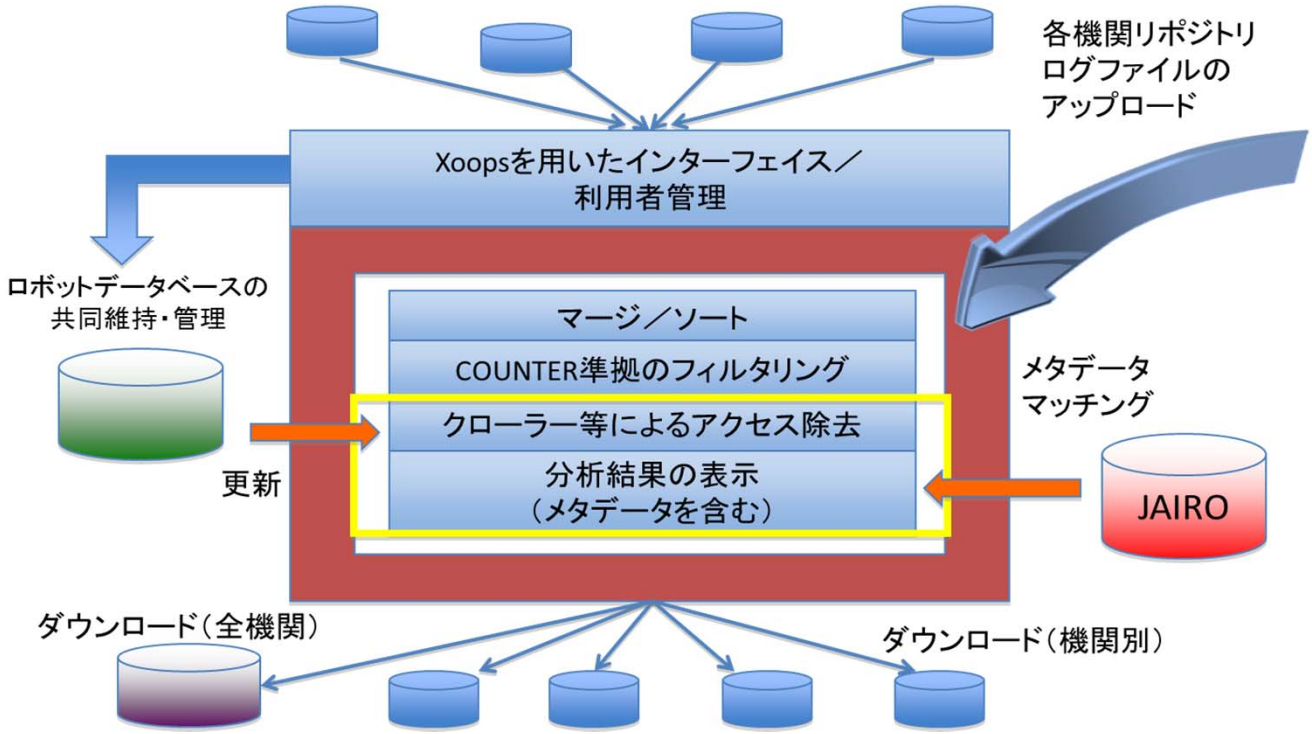
2010-2012年度の活動

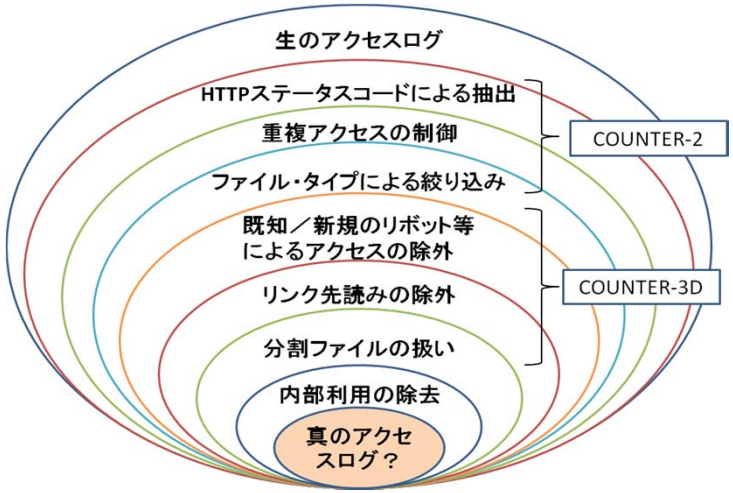
- 機関リポジトリアウトプット評価システム(ROAT)の運用
- 統計処理方法の検討
- 情報交換・共有
  - 国際連携の実施
  - 報告書の作成，公開
  - 月刊DRF，DRFワークショップ等での広報

- ROATの提供終了

機関リポジトリアウトプット評価システムの運用
Repository Output Assessment Tool ： ROAT

登録機関数　33機関

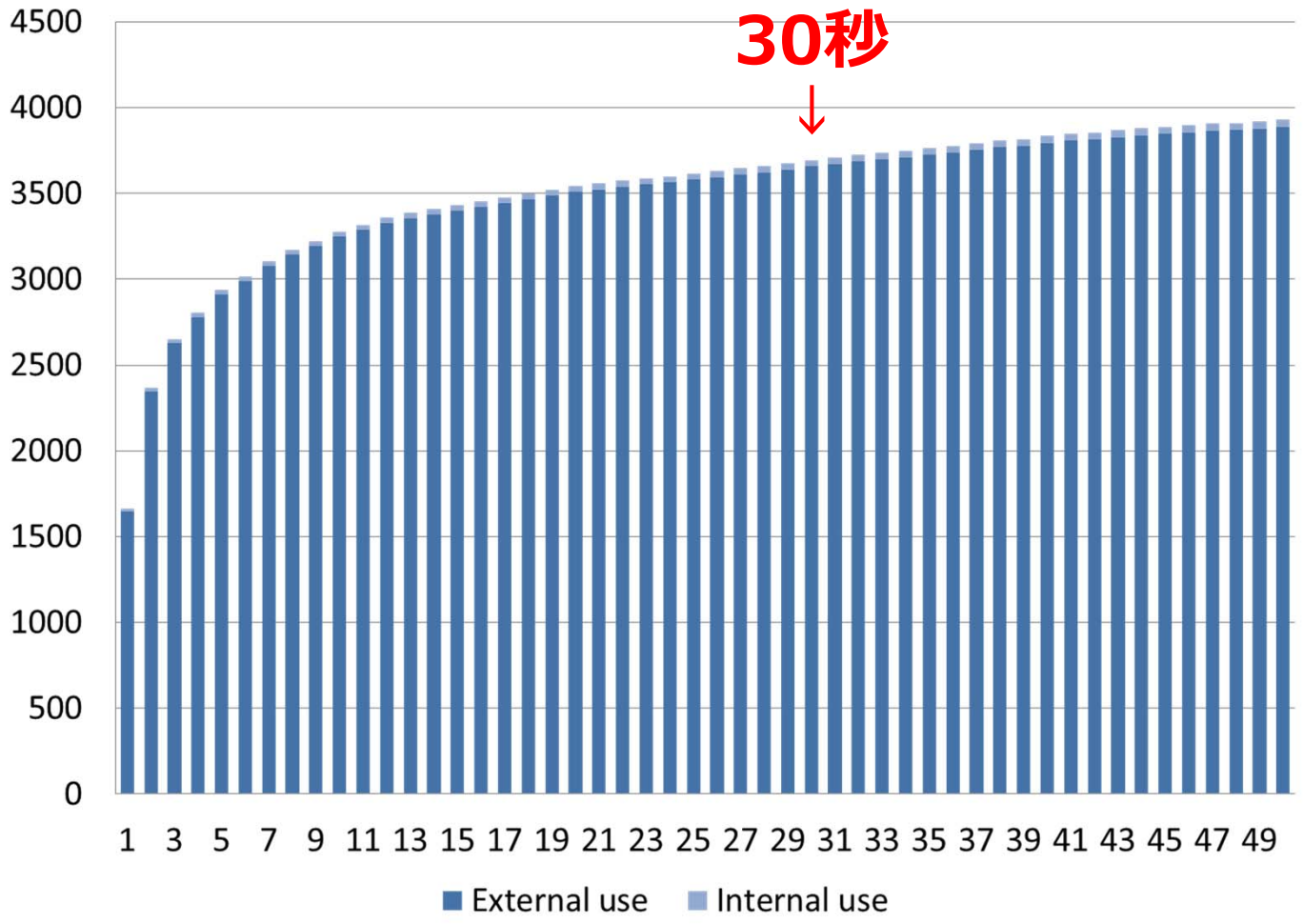




アクセスログからのデータ抽出処理
（フィルタリング）

統計処理方法の検討

– COUNTER実務指針の多重カウント秒数設定について –

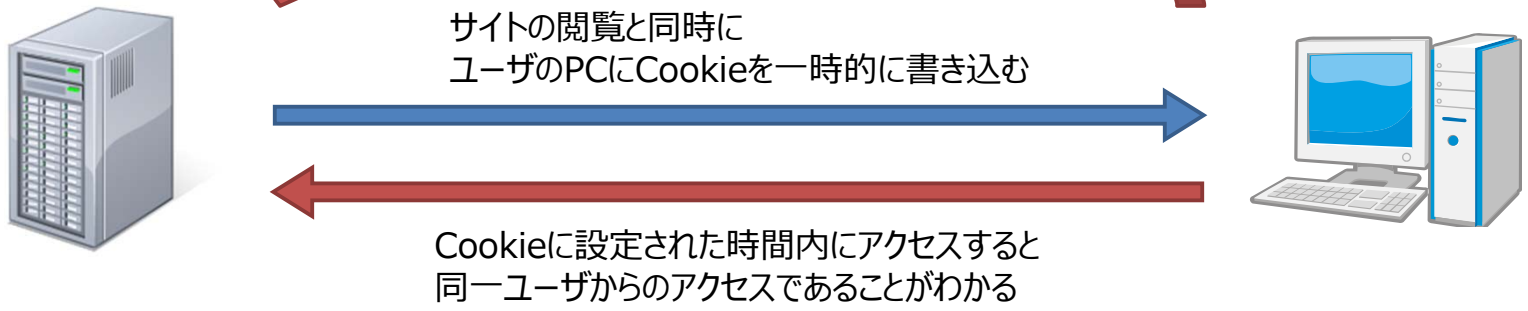


統計処理方法の検討

ー 利用者単位のアクセス集計のためのセッション識別方法について ー

With Cookie	7,264	100%	Cookie: IP address = 1:1	5,087	70%
			Cookie : IP address = n:1 (n>1)	1,288	18%
			Cookie : IP address = 1:n (n>1)	456	6%
			Cookie : IP address = n:m (n>1, m>1)	433	6%

検討方法



国際連携の実施

- 機関リポジトリアクセスのカウントに関する国際会議の実施

International Seminar on Standardization of IR Usage Statistics
-- How we count the access to institutional repositories –
機関リポジトリのアクセス数をいかに数えるか？

2011年1月11日　@国立情報学研究所
参加者数：23名

- PIRUS２プロジェクトの最終成果報告セミナー参加

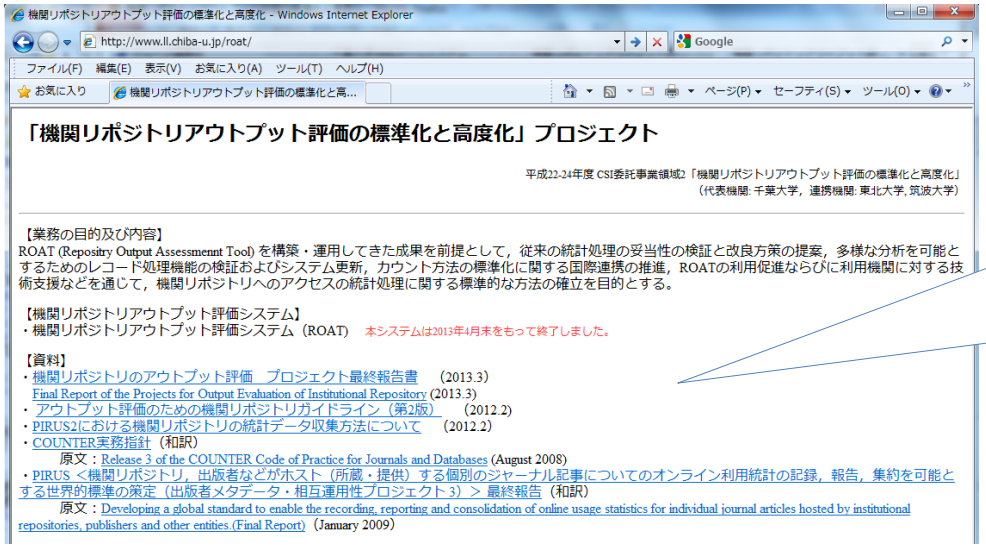
Counting Individual Article Usage : A Seminar Covering the PIRUS2 Project Outcomes, Recommendations and the Next Steps

2011年2月

報告書の作成・公開

- 機関リポジトリアウトプット評価に関するプロジェクトを総括する報告書を和文・英文で作成し，オンラインで公開
- 「機関リポジトリアウトプット評価のためのガイドライン」の改訂

http://www.ll.chiba-u.jp/roat/



機関リポジトリのアウトプット評価 プロジェクト最終報告書

Final Report of the Projects for Output Evaluation of Institutional Repository

月刊DRF，DRFワークショップ等での広報

- 2010年度
  - 月刊DRF2011.1月号（No.12）
  - DRFtech-Kumamoto
- 2012年度
  - 月刊DRF2012.8月号（No.31）
  - DRF9 技術WGポスターセッション

ROATの提供終了

ROATは，2013年4月末で提供を終了しました

今後？

IRUS-UK

- 英国の機関リポジトリ利用統計用パッケージ
- PIRUS2プロジェクトで構築
  - COUNTER準拠の比較可能な利用統計
  - ログの分析はpush（trackercode）とpull（harvest）
- UK RepositoryNet+の一部として，Jiscが助成

ROATプロジェクトへのご協力ありがとうございました

お問い合わせ等はこちらまで

ir@office.chiba-u.jp